

## MOMAT コレクション 今期の見どころは 芹沢銈介、岸田麗子、ジェルメーヌ・リシエ。 毎年恒例の春まつりも！

今期も見どころたくさん！文字をモチーフとした華麗な模様や装丁デザインなど知られる染色家・芹沢銈介せりざわけいすけの特集は金沢の国立工芸館所蔵品がずらりと並ぶ圧巻の展示です。岸田劉生の「麗子像」のモデルとして知られる岸田麗子は今年で生誕110年。昨年度収蔵したジェルメーヌ・リシエの彫刻のお披露目にもご注目ください。毎年恒例の春まつりの他、同時期開催の企画展「中平卓馬 火一氾濫」に関連して、高梨豊やもの派の展示も。常に新しいMOMATコレクションをお楽しみください。



[1] 芹沢銈介〈1972年のカレンダー（1月）〉  
1971年、国立工芸館蔵  
金子量重コレクション



[2] 岸田劉生《麗子肖像（麗子五歳之像）》  
1918年



[3] ジェルメーヌ・リシエ《蟻》  
1953年、撮影：大谷一郎

会期：2024年1月23日（火）～4月7日（日）

会場：東京国立近代美術館 所蔵品ギャラリー4-2階

### 小特集 芹沢銈介と、新しい日々（10室）

伝統的な型染の技法を用いながら独自の表現を切り開き、国内外で高い評価を受ける染色家・芹沢銈介（1895-1984）。金子量重氏のご寄贈による充実した芹沢のコレクションを中心に、国立工芸館が所蔵する名品の数々を紹介します。芹沢の名を広めた和紙による型染カレンダー10年分120点が一面を飾る壁は特に見ものです。

#### ポイント

- 小さなマッチラベルから着物まで、型染め第一人者・人間国宝による型絵染の技と、モダンなデザインにご注目。
- 関連作家として柚木沙弥郎の作品も展示します。



[4] 芹沢銈介《木綿地型絵染文字文のれん天》1965年、国立工芸館蔵  
金子量重コレクション

☑ 「MOMAT コレクション」では、13,000点を超える所蔵作品から選りすぐりの約200点を、会期ごとに3フロア12の部屋に分けて展示します。19世紀末から現代までの日本美術の歴史を、海外作品も交えながら、毎回多様な切口で紹介しています。

【プレスリリースお問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 成相・小川

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576

Email: pr-f@momat.go.jp

MOMAT

## 麗子、生誕110年（3室）

岸田劉生の長女・岸田麗子（1914-1962）は、肖像画「麗子像」によって日本近代美術史上にその名を刻んでいます。麗子がモデルであっただけでなく、自らも絵画を制作していたことはご存じでしょうか？生誕110年を機に、当館が所蔵する「麗子像」を一挙に公開するとともに、劉生の長男・鶴之助氏から遺贈を受けた資料群をご紹介します。

### ポイント

- 劉生の作品とともに、幼い麗子が描いた作品もご紹介します。
- 写真や日記などの資料の断片から浮かび上がる親密な親子関係が目を細めさせます。



[5] 岸田劉生《麗子鬼を打つ図》制作年不詳

### コレクションによる小企画

## 新収蔵&特別公開 | ジェルメーヌ・リシエ《蟻》（ギャラリー4）

フランスの彫刻家ジェルメーヌ・リシエの彫刻《蟻》を初公開します。リシエ（1902-1959）は、第二次大戦後における女性彫刻家の先駆的存在の一人で、近年その再評価が急速に進んでいます。注目ポイントは人体と自然界・動植物のイメージを有機的に結合させた独自の作風。造形的な魅力とともに、リシエとゆかりのある戦前の日本人彫刻家やリシエに大きな影響を受けた戦後の日本人彫刻家の作品など、時代のつながりも紹介します。

### ポイント

- 日本ではほぼ知られていないリシエの魅力を、時代や造形の関わりから紹介します。
- 人間と動植物との混成という観点で作品を集めたコーナーがミステリアスかつユーモラスです。



ジェルメーヌ・リシエ《蟻》  
1953年、撮影：大谷一郎



## 美術館の春まつり

2024年3月15日（金）-4月7日（日）

毎年好評の春まつりを、今年も開催します。皇居周辺のお花見と合わせて、ぜひご来館ください。

川合玉堂の重要文化財《行く春》をはじめ春にまつわる所蔵品を展示するほか、レストランの特別メニューのテイクアウト販売や前庭の休憩所もご用意いたします。

詳しくは美術館ウェブサイトにてお知らせいたします。



[6] 川合玉堂《行く春》1916年、重要文化財、左隻

### 【プレスリリースお問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 成相・小川

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576

Email: pr-f@momat.go.jp



## 開催概要

タイトル：所蔵作品展「MOMAT コレクション」(しよぞうさくひんでん もまっとこれくしょん)  
(英) Collection Exhibition MOMAT Collection

会場：東京国立近代美術館所蔵品ギャラリー 4階から2階

会期：2024年1月23日(火)～4月7日(日)

休館日：月曜日(ただし2月12日、3月25日は開館)、2月13日

開館時間：10:00-17:00(金曜・土曜は10:00-20:00)※入館は閉館30分前まで

観覧料：一般500(400)円/大学生250(200)円

※()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 ※金曜・土曜の17時以降は、割引料金(一般300円、大学生150円)  
※高校生以下および18歳未満、65歳以上は無料。※障害者手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。

住所：〒102-8322 千代田区北の丸公園3-1

アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」(1b出口)徒歩3分

一般のお問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル)

ウェブサイト：<https://www.momat.go.jp>

主催：東京国立近代美術館

同時期開催：企画展「中平卓馬 火一氾濫」

2024年2月6日(火)～4月7日(日)

<https://www.momat.go.jp/exhibitions/556>

「中平卓馬 火一氾濫」のチケットで、  
入館当日に限り、所蔵作品展「MOMAT コレクション」もご覧いただけます。

【プレスお問い合わせ先】

「中平卓馬 火一氾濫」広報事務局(ユース・プランニングセンター内)担当：片山・池袋

Tel: 03-6826-1245 Fax: 03-6821-8869 E-mail: [nakahira2024@ypcpr.com](mailto:nakahira2024@ypcpr.com)



東京国立近代美術館は、皇居のほど近くに建つ、日本で最初の国立美術館。1952年に開館し、2022年12月1日に開館70周年を迎えました。最大の特徴は重要文化財18点(うち2点は寄託)を含む13,000点を超える国内最大級のコレクション。19世紀末から今まで、国を代表する多数の名作を所蔵しています。都会の真ん中でありながら自然豊かなエリアに位置し、最上階の休憩室「眺めのよい部屋」からは、皇居の緑と丸の内ビル群のパノラマ・ビューをお楽しみいただけます。

## ご取材お待ちしております！

東京国立近代美術館には、「コレクション情報発信室」があります。所蔵品を管理する美術課に所属し、作品の魅力や楽しみ方を広報する部署です。当館の所蔵する日本随一の作品群は、まだ十分に知られていません。いつでも気軽にご連絡ください。コレクションをよく知る研究員が、みなさまからのご取材を心よりお待ちしております。



【プレスリリースお問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 成相・小川

TEL: 03-3214-2565(直通) FAX: 03-3214-2576

Email: [pr-f@momat.go.jp](mailto:pr-f@momat.go.jp)

